

令和 7 年度 学校総合評価

今年度の重点目標に対する総合評価

【学習活動】

基礎学力の定着に向け、各教科で「学び直し」を授業に導入した。必要性を理解して取り組む生徒がいる一方で、学習意欲を十分に持てない生徒も依然として見受けられる。学ぶきっかけとして、目的を設定する機会や、興味を持たせる工夫がさらに必要である。

【学校生活】

基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を重視し、挨拶・時間遵守・身だしなみに関する玄関前指導等を継続した。前年度比で遅刻回数は減少し、挨拶ができる生徒も増加傾向にあるが、完全な定着には至っていない。今後も家庭との連携を密にし、粘り強い指導・支援を継続する。

【進路支援】

職業観の育成と主体的進路選択を促すため、情報提供の充実に重点を置いた。1・2年次にはキャリア教育プログラムへの参加を促し、3年次には進路支援サイトを導入して情報アクセスの利便性を高めた。今後は生徒の挑戦意欲を醸成するため、教員側の情報収集・提供体制をより一層強化していく必要がある。

【特別活動】

ボランティア、異年齢交流、部活動を通じた学校生活の充実を図り、各活動を希望制で推奨した。ボランティア等の校外活動参加人数は目標を達成したが、参加層の固定化が課題である。部活動は参加生徒の前向きな姿勢が見られるものの、興味・関心の多様化により全体的な参加率は伸び悩んでいる。今後は同好会の活用も含め、より幅広い生徒が参加できる仕組み作りを検討する。

【地域連携】

外部への情報発信として、Instagramの定期投稿に取り組んだ。生徒の活動や学校案内を中心に、中学生や保護者へ向けた発信も行った。今後は、現在の教員主導の発信を生徒主体へと移行させ、地域社会とのより深い連携につなげたい。

次年度へ向けての課題と方策

総合学科の特色と強みについて教職員が理解を深め、「学び直し」の取り組みを継続・深化させる。生徒が主体的に進路を切り拓き、学習や特別活動に邁進できるよう、多面的な支援体制を構築することが重要である。学校評議員、保護者、地域社会との協力をより強固にし、生徒が「やりたいこと」を発見し、学校生活のあらゆる場面で果敢にチャレンジできる機会を創出していきたい。